

# 日韓欧実務者セミナー

## セッション 1

### 「移民の子どもの教育」

モデレーター	ダイバーシティ研究所代表理事 田村太郎
コメンテーター	欧州評議会 ICC プロジェクトマネージャー イレーナ・ギディオヴァ
事例発表者	美濃加茂市地域振興課長 坂井嘉巳【日本】
	光明市女性・家族課多文化チーム長 パク・サンヒョン【韓国】
	光州市光山区多文化政策チーム長 チェ・ユンジョン【韓国】
	ダブリン市社会統合マネージャー デ克蘭・ヘーデン【アイルランド】

資料:「日韓欧多文化共生サミット2012 浜松 (2012.10.26)」

### 地方都市における 外国籍の子どもの教育の現状と課題



美濃加茂市 坂井 嘉巳

資料:「日韓欧多文化共生サミット2012 浜松 (2012.10.26)」

### 《Ⅰ》美濃加茂市の概要 「外国人生徒の進路等調査」

(外国人集住都市会議調査結果)(2012)から

項目	美濃加茂市	集住都市
進学率	74.2%	83.9%
在籍期間(5年以上)	67.7%	73.8%
日本語能力(1)理解	40.0%	49.4%
日本語能力(2)不可	60.0%	40.2%

調査方法:外国人集住都市会議参加都市の公立中学校を、2012年4月に卒業した外国人生徒  
有効回答数:1,010人 (うち美濃加茂市91人)

(注) 日本語能力(1)理解:通訳授業受修

日本語能力(2)不可:学習指導、支援不可  
読み書きに困難あり

美濃加茂市 坂井 嘉巳

資料:「日韓欧多文化共生サミット2012 浜松 (2012.10.26)」

### 《Ⅱ》高校の状況

#### a. 県立高等学校定時制(美濃加茂市内)

[概要]

1年生~4年生まで全校生徒122人中46人が外国籍生徒

国籍:ブラジル籍 約70%、フィリピン籍 約20%、

その他の国籍 10%

通学範囲:可児市 50%、美濃加茂市 36%

その他 14%



美濃加茂市 坂井 嘉巳

#### b. 県立高等学校全日制(近隣自治体)

[概要]

国籍:( )は、日本語指導が必要な生徒の内数

学年別:1年生 28人、2年生 19人、3年生 9人

外国人特別校の生徒は、3人が最高

ブラジル籍24人(15人)、フィリピン籍29(21人)

通学範囲:可児市 31人、美濃加茂市 18人、その他 7人

資料:「日韓欧多文化共生サミット2012 浜松 (2012.10.26)」

### 《Ⅲ》ブラジル友の会取り組み

#### ①新事業:高校生への就学指導

「高校生のための学習支援」(岐阜県外国籍の子ども  
の進学支援事業)

8月始まる。現在8人が通っている。

内訳:ア. 国籍:ブラジル人 7人、中国人1人

イ. 全日制高校 5人、定時制 1人、アルバイト1人、無職1人

・Aさん(17歳) 来日7年 パンコ機器製造現場  
で非正規として就労

#### ・Bさん(15歳) 来日7~8年

家庭環境:父母と兄(定時制高校へ進学)姉(市の  
県立高等学校へ進学。英語を得意とし将来は、  
大学で勉強したい意向)

・Cさん(17歳) 来日1年6か月

日本人男性と再婚した中国人妻の子。特別科にて  
全日制の農業高校に今年入学。日本語は日常会話  
も難しい。学校では、中国人女性(日本語)が通  
訳指導員として、学習指導を行う(ただし、今年度開  
校)



美濃加茂市 坂井 嘉巳

資料:「日韓欧多文化共生サミット2012 浜松 (2012.10.26)」

### 《Ⅳ》課題

#### a. 教育現場の課題

- (1) 言葉の問題
- (2) 文化等の違いの問題
- (3) 進路の問題
- (4) 適応指導員の重要性
- (5) 外国人生徒の受け入れ体制の問題

#### b. 家庭における課題

- (1) 教育に関する親の意識
- (2) 家庭環境の複雑さ



資料:「日韓欧多文化共生サミット2012 浜松 (2012.10.26)」

### 《Ⅴ》最後に

- ① 1990年に入管法が改正されて22年。教育の問題も含めた多文化共生施策の課題は、整理されてきたと思  
われるが解決策がないのが現状である。
- ② 日本人男性と国際結婚した中国人女性が、前夫(中国人男性)との間の子どもを呼び寄せるケースが増加し  
ている。

#### ①岐阜県中国人登録者数

在留資格	中国人登録者数	
	2002	2010
永住者	594	1,805
日本人の配偶者等	465	742
永住者	373	481
その他	6,714	8,914
合計	10,156	12,331

資料:①在留外国人統計(岐阜県)

#### ②岐阜県別調査

項目	増減件数(組)	
	1997	2010
婚姻者数	12,013	9,847
母:日本人	10	164
父:中国人	4	6

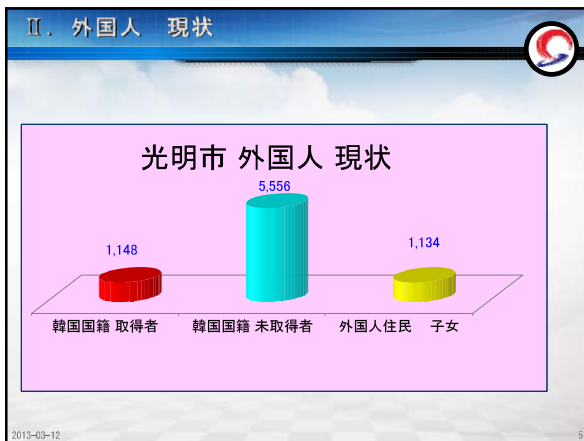
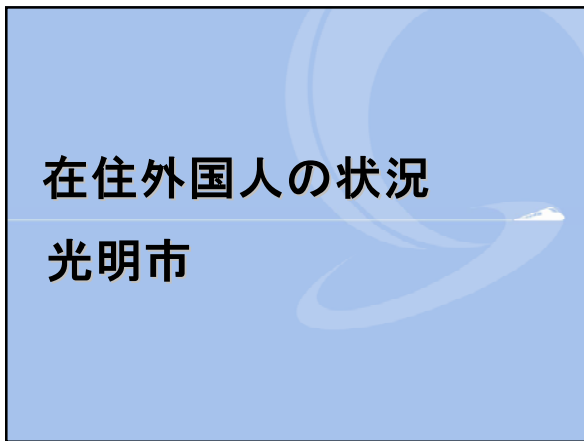
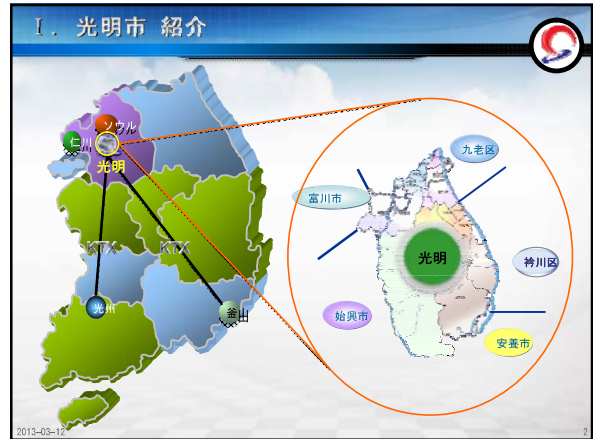
資料:②人口動態調査

#### ③「言語力」とは

「生活言語」として「学習言語」の獲得が必要と考えられているが、生涯を通じて日本語を学習できる機会が必要で  
はないか

「言語」は、コミュニケーション手段だけではなく、生きていく上での思考する力である。

美濃加茂市 坂井 嘉巳



## II. 外国人 現状



2013-03-12

## III. 多文化家族 支援センター



2013-03-12

### 現状

- 開館：2010年1月
- 委託団体：社会福祉法人インクローバー財団
- 運営人員：4名(センター長1, チーム長1, チーム員2名)
- 延べ面積：316.54㎡(地下1階, 地上1階)
- 月間利用人数：月2,000人
- 事業費：496,374千ウォン  
15事業(国費4, 道費6, 市費5)

## IV. 移民二世への教育プログラム

### 訪問教育 子女生活サポートサービス



- 支援対象：満3-12歳の多文化家族子女
- 期間：2月 - 11月
- 内容  
認知領域、自我・情緒・社会性  
発達及び文化力向上  
- 読書コーチ、父母コーチ等

2013-03-12

## IV. 移民二世への教育プログラム

### 2012 図書館での本読み



- 支援対象：幼稚園生~小学低学年生
- 期間：3月 ~ 10月
- 内容  
一週1回の活動、童話本読み、  
本と関連した遊び、制作活動など

2013-03-12

## IV. 移民二世への教育プログラム

### 私達の! 希望を込めてシャッターを押しましょう (Click) しよう



- 支援対象：小学高学年生(4学年-) 中・高校生
- 期間：5月 - 11月
- 内容- 各種行事とプログラム  
活動写真を撮ることで、文化理解  
及び適応能力を向上させる

2013-03-12

## V. 今後の推進計画

### 既存建物(敷地) センター移転場所



2013-03-12

### 多文化事業拡大推進

- センター拡張移転

当初	変更
316.54㎡	674㎡
- 活動強化 活性化 施策
  - センター利用  
"家族参加型運動" 展開
  - 総合的なサービスプログラム開発及び提供
  - 1:1の個別相談を通して注文型システムを構築

12



It's  
together+  
Gwangsan!

Asia-Europe Intercultural City Summit,  
2012 in Hamamatsu



# 01 光山区の現状

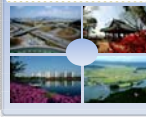
## 光山区の現状

- 位置:大韓民国の西南部の中心都市
- 面積:222.88㎢(市全体の45%)
- 人口:389,936人(外国人7,332人を含む)
- 産業団地:4つの団地に562社



### 多様性が共存する都市

先端伝統、都市農村、旧都心新都心の多様性が存在



### 若く、活気のある都市

10年間で12万人の人口増加  
区民の平均年齢33.4歳



### 外国人が集まる都市

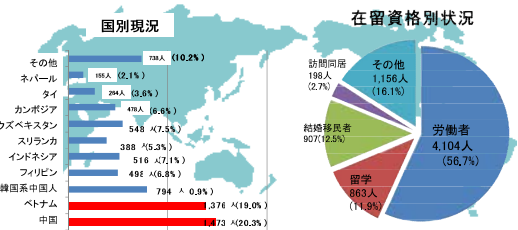
光州市の55%の産業団地が集中  
登録外国人の50%以上居住



## 外国人の現状

\*根拠:全国外国人住民の現状調査(行安部、2012.1.1日現在)

	2008	2009	2010	2011	2012
Korea	767,823	825,410	920,887	1,002,742	1,117,481
Gwangsan (全市比の比率)	4,696 (0.61%)	5,189 (0.62%)	5,631 (0.61%)	6,752 (0.67%)	7,228 (0.64%)

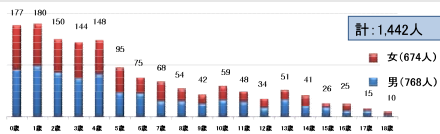


## 結婚移民(外国人花嫁)と子どもの現況

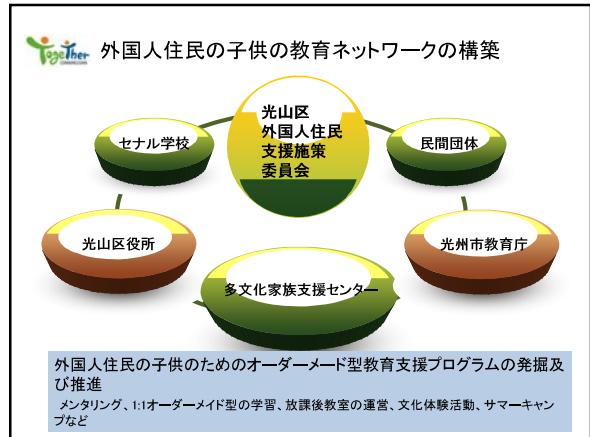
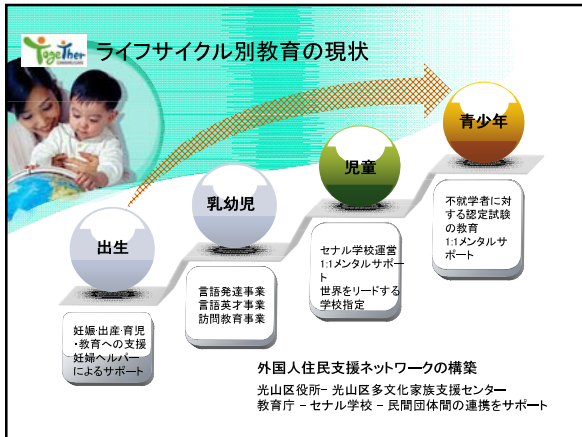
### 光山区の結婚移民(外国人花嫁)の現状



### 光山区外国人の子どもの年齢別現況



# 02 移民第2世代の教育プログラムの現状



### 1. 多文化家庭における子どもの言語発達教育

**乳幼児期** 言語発達支援教育  
- 言語発達についての評価、教育、相談

**乳幼児期** バイリンガル教育  
- 結婚移民者のバイリンガル講師の活用

**児童・青少年期** 親の出身国の言語や文化教育

### 2. 認知感情能力の向上プログラムの運営

**児童・青少年** 多文化家庭の子どもへの1:1オーダーメイドの学習教育、地域社会のネットワークの連携教育  
- サッカー教室などのスポーツ活動、芸術、料理、文化体験プログラム支援

### 3. グローバルスクール“セナル学校”の運営

**児童・青少年** 個々の能力や適性を考慮したオーダーメイドの学生中心の教育  
- 中途入国の子どものための1:1の教育課程の編成、学年分けしない学校運営  
- 韓国語を公用語とするカリキュラムの履修、母国語 - 第3外国語教育

세계를 품은 세날학교

▼1人1特技教育 ▼少人数のグループの教育 ▼フリースクール委託教育

### 4. 多文化フリースクールと“統合教育の日”の運営

**児童・青少年** 一般学校の児童とセナル学校の児童との統合授業運営  
- 一般学校へ移動予定のセナル学校児童の心理的負担の軽減と適応支援  
- 外国人児童との交流をきっかけに、非多文化児童の多文化理解の推進

**Together** 5.セナル学校と一緒に多文化体験祭り

**児童・青少年** 世界各国の文化体験学習の場を通じた体験プログラムの運営  
 -各国の衣装、食べ物、住宅、言語、伝統文化公演など多様な体験プログラム  
 -幼稚園、小、中、高校生、一般の人の多文化理解の推進の場の用意



**Together** 6.多文化家庭の子どもへのメンタリングプログラムの展開

**児童・青少年** 多文化家庭の子どもと教職課程の大学生、地域団体の連携・メンタル提携  
 -学習支援と動機づけ、学習進路と相談などを通じた学校での適応向上  
 -生活指導、心理相談など、多角的な支援で社会適応力の向上



**Together**

03 結論



**Together** 今後の課題

<p><b>多文化包容力の向上</b></p> <p>多文化社会を包容・コミュニケーション・共感する雰囲気を広げる努力</p>	<p><b>オーダーメイド型教育支援</b></p> <p>多文化児童への教育ネットワークを生かした需要者中心の教育推進支援</p>	<p><b>メンタリングの拡大</b></p> <p>地域の人的資源を活用 体系的メンタリングと多角的支援の推進</p>
---	--	--

“健やかな成長支援とグローバルな人材育成”

**Together**  
GWANGSAN



**Thank You**

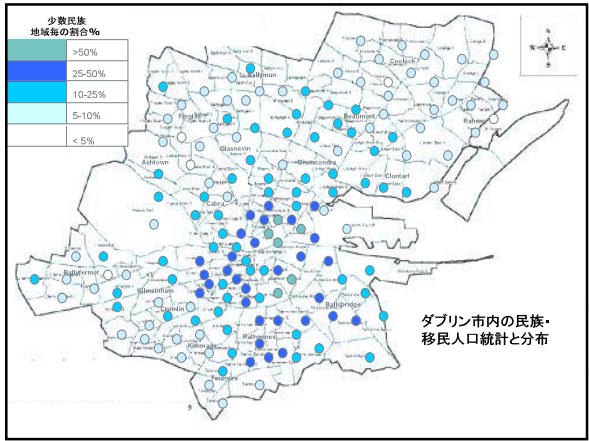
日韓欧多文化共生都市サミット2012浜松  
2012年10月25日、26日

教育と社会統合 - 移民第2世代

デクラン・ヘーデン  
アイルランド・ダブリン市議会コミュニティ・企業局社会統合室

インターカルチュラル ダブリン

背景・歴史



2011年国勢調査統計

2011年国勢調査:  
アイルランドの外国人数は、2002年に224,261人であったが、2011年には、544,357人に増加した。  
9年間で143%の増加。

ダブリン都市圏の人口: 1,248,107人  
ダブリン都市圏の外国人数: 195,496人 (15%)  
ポーランド人: 18.3%, アジア系: 18.4%, 英国: 10.5%, アイルランドと英国を抜くEU 15: 11.7%,  
ポーランドを抜くEU 15-27: 20%

ダブリン市の人口: 511,344人  
ダブリン市の外国人数: 88,038人 (17%)  
アジア系: 21.6%, ポーランドを抜くEU 15-27: 18%, ポーランド人: 15.2%,  
アイルランドと英国を抜くEU 15: 15% 米圏: 12%, ポーランド人: 8.9%

外国人青年人口			
0-14 歳	女: 40%	男: 40%	
15-19 歳	女: 17%	男: 16%	
20-24 歳	女: 22%	男: 20%	



## アイルランドの経験

- 変化する情勢と社会の課題
- 世俗化 / 資本主義 / アイデンティティーの変化
- 成長著しいアイルランド — 経済
- 教育の課題: 宗教的背景
- 言葉の問題
- 理論的影響
- 現代の課題



## 移民による教育の変化

### アイルランドの教育:

伝統的に学校は宗教団体が設立して管理する  
 経済社会研究所による多様性の適応に関する調査結果は以下の通り

移民への対応:  
 集団化は小学校のレベルで多い / 多文化共生の能力が低い  
 小中学校も高校も言語の問題がある

### タイプ毎の小学校の数



## 対応

教育省と移民総合推進局が共同で「インターカルチュラル教育戦略2010-2015」を策定

この戦略の策定は、アイルランド政府が「世界反人種差別会議2001ダーバン」に参加した際、「反人種差別実行計画 (NPAR)」を策定することを決めたことに起因する。

NPARが教育部門に影響を及ぼし、インターカルチュラル教育戦略が策定された。策定にあたり大掛かりな検討が行われた:

2008年10月に開催された第1回会議、7部門が参加した検討会、国内外の調査 (ERSI2 やOECD3等) や提出された50以上の書類



## インターカルチュラル教育の枠組

1. リーダーシップ: 全機関が連携し、インターカルチュラルな学習環境を構築する
2. 教育実施の社会主流化
3. 権利と義務
4. 高い志と期待
5. 授業の質を高めます: インターカルチュラルな学習環境を構築するため教育機関の教える能力を高める
6. 主要言語の知識: 学習者が主要言語を話すことができるように支援する
7. 連携: 教育機関、学習者、保護者、コミュニティの連携を促進する
8. 効果的なコミュニケーション
9. データ収集と研究: 根拠に基づき政策決定や意思決定ができるようにデータ収集やモニタリングを行う
10. 実行、モニタリング、評価



## “Educate Together”

- “Educate Together”は、アイルランドにおいて「Educate Together憲章」に基づき設立された学校のネットワーク組織です。“Educate Together”は、非政府組織で学習者に対し社会、文化、宗教的背景に関わらず教育へのアクセスや尊重を保障しています。また、学習者主体の教育アプローチを採用するとともに、参加型の民主主義に基づき経営を行っている。
- 1978年に設立され、アイルランドにいる子ども達のために学校経営に取り組んでいる。社会、文化、宗教的背景に関わらず、すべての子どもに対してアクセスや尊重を保障するという理念に基づき、レベルの高い教育を提供している。
- 現在、“Educate Together”は、アイルランドにおいて65の多宗派の小学校を運営している。全国で“Educate Together”の学校ネットワークは親の要望により成長している。
- 2014年に初めて“Educate Together”の中学校がオープンします。 [www.educatetogether.ie](http://www.educatetogether.ie)



## “Learn Together”

- 「Learn Together」学校では宗教教育の代わりに道徳教育を行っている。「Learn Together」は4つの柱から構成されている。
- 「Learn Together」使命記述書:
- 性別や階級、ステレオタイプに関わらず最大限に能力向上を促進し、子どもは1人も「よそ者」と思われていないという教育哲学を促進する。また、他にはない親の関与と教師の専門的な役割を合わせた民主的な連携の哲学を含みます。
- 1. 道徳的 & 精神的
- 2. 平等 & 公正
- 3. 信念体系
- 4. 倫理 & 環境



## 重要な社会参加プロジェクト

- インターカルチュラルセンターのネットワークを構築 - ランターンセンター(中央)
- 文化祭とお祝い
- 異教徒間
- スポーツ - GAA, FAI, SARI, SRRCなどのスポーツネットワーク
- 芸術 - ギャラリーや美術館、図書館とのネットワーク
- 国内の機関間のネットワーク: アイルランドイスラム基金、ICI、MRCI、NCP、Akidwa、社会統合センター
- 「移民フォーラム」の設置



- エイズ/HIV 移民問題セミナー
- フェアトレード
- 平等、多様性/社会統合トレーニング
- 国民的な議論: 青年のチャレンジ/差別はどこに
- 「ダンス、ドレス、食」を超える
- 社会統合や人間の共有経験の理解を深める



## インターカルチュラル ボクシングトーナメント

ダブリン市議会と共同してセント・セビアス・オリンピック・ボクシング・アカデミーとスミスフィールド・ボクシングクラブは誰でも参加できる「ボクシングは1つのコミュニティ」というダブリン市インターカルチュラル・カップを開催している。

毎週、さまざまな背景や階級からきた青年が参加して、インターカルチュラルな素質があるボクシングの規律を学びます。

今回、10月26日に開催されるトーナメントは、アイルランドのデリー、オーマ、ダブリンの他にロンドン、ノルウェー、バルト諸国からのチームが参加します。



## 日本体験



花見を祝う毎年恒例のフェスティバル: 多くの日系日本人やアイルランド人が参加します。

ダブリン市立大学とダブリンユニバーシティカレッジ

[www.experiencejapan.ie](http://www.experiencejapan.ie)



## ダブリン旧正月フェスティバル



2013年の6回目のフェスティバルに向け準備中。

アイルランドと中国の関係のお祝い

北京とダブリンをつなぐ

中国人の2世や3世が深くかわる

中国人の養子に焦点を当てている

インターカルチュラルイベントのすばらしい例

[www.cny.ie](http://www.cny.ie)

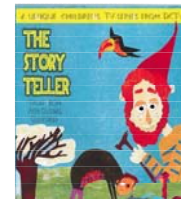


## ザ・ストーリーテラー

様々な文化的背景を持つ5人の語り手が自分の文化を代表します。ダブリンの5つの学校から1つずつ教室を設けます。

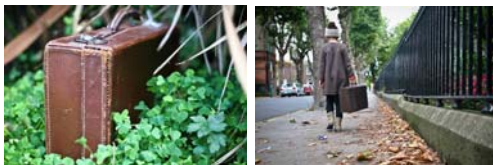
この事業は、ナイジェリアのテレビ番組(中でも特に有名な「テールズ・バイ・ザ・ムーンライト」)とアイルランドにおける1つの芸術形態としての口承文学から影響を受けています。子ども向けの10の物語と大人向けの1時間のドキュメンタリーです。

この文化の組み合わせには、アイルランド、ナイジェリア、ジャマイカ、インド、モーリシャスから来た語り手だけでなく、様々な文化を持つ生徒もいます。新しいインターカルチュラルシティ・ダブリンを表しています。



## スーツケースストーリー

このプロジェクトは、アイルランドに住んでいる難民の子どもが美術を通して自分のストーリーを表現するものです。コンセプトは、スーツケースの中身は、どこから来たかを表しており、スーツケースの外はどこに来たかを表している。このプロセスやイメージは、青年の今までの経験と現在の状況を表すだけでなく、将来の夢も表されます。UNICEFとダブリン市議会が共同で実施している。



## 連絡先

### 社会統合室:

デ克蘭・ヘーデン / ジェリー・フォーラン /

デーブ・オ・ドノバン:

メール: [integration@dublincity.ie](mailto:integration@dublincity.ie)

フェースブック: Intercultural Dublin

電話番号: 01-2225091

